

会 議 概 要

会 議 名	令和4年度 第1回豊橋市上下水道事業経営検討委員会
開 催 日 時	令和4年11月15日（火） 午前10時00分から午前11時30分
開 催 場 所	豊橋市上下水道局 5階 大会議室
出 席 委 員	稲田充男委員（会長）、井上隆信委員（副会長）、齊藤由里恵委員、塩瀬真美委員、林正幸委員、藤城ひろみ委員
欠 席 委 員	戸田敏行委員
事 務 局	木和田上下水道局長、白井上下水道局次長、前田総務課長 田口営業課長、森下浄水課長、石黒下水道施設課長、羽田野下水道整備課長、夏目総務課主幹、伊藤水道管路課主幹、白井総務課主査、石黒総務課主査、長久総務課主査、丸亀総務課主任、後藤総務課主任、細江総務課事務員
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長挨拶 3. 上下水道局長挨拶 4. 委員紹介 5. 職員自己紹介 6. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 豊橋市上下水道ビジョン 2021-2030 令和3年度の進捗状況について (2) 上下水道局の取り組み（工事）について 7. 閉会
配 布 資 料	次第 資料1 豊橋市上下水道ビジョン 2021-2030 令和3年度評価シート 資料2-1 管種別更新基準年数に基づく水道管の更新について 資料2-2 スtockマネジメント計画に基づく下水道施設の改築・更新について 座席表 委員名簿 上下水道ビジョン 2021-2030 上下水道局だより No.15、No.16
会 議 の 公 開 又 は 非 公 開	公開（傍聴者なし）

令和4年度 第1回豊橋市上下水道事業経営検討委員会 要録

発言者	会議の概要
会長	<p>1. 開会 (略)</p> <p>2. 会長挨拶 (略)</p> <p>3. 上下水道局長挨拶 (略)</p> <p>4. 委員紹介 (略)</p> <p>5. 職員自己紹介 (略)</p> <p>6. 議題 (1) 豊橋市上下水道ビジョン 2021-2030 令和3年度の進捗状況について 事務局より説明を求めます。</p>
事務局	<p>資料1「豊橋市上下水道ビジョン 2021-2030 令和3年度評価シート」について説明</p>
会長 委員	<p>事務局の説明に対し、質問・意見を伺いたい。</p> <p>1点目として、指標の進捗状況と単年度の取組状況の相関について、単年度事業では上手くいっていても指標に繋がらないことがあるということか。「課題」の項目があるので良いかもしれないが、単年度の取組状況の中で特記しておかなくても良いのか。</p> <p>単年度の取組状況と指標の進捗はどちらが優先されるものなのか。</p> <p>2点目として、事業計画の進捗ですが、指標にはいつ何を実施するかという計画はあるのか。評価シートに書いてあれば、今年度は計画がないので、実施していなくても大丈夫と分かる。評価シートの中に「令和〇〇年度～〇〇実施」などと計画を記載してあるとビジョンと見比べなくても分かるので工夫された方が良いと思う。</p>
事務局	<p>指標と取組状況では不整合はあるように感じた。指標に対する課題を記載しているものの、取組状況の中でも振り返りと反省が必要だと感じたので、次年度からの評価の参考とさせていただく。</p> <p>また、計画はビジョンの中で事業総括表として掲載しているが、評価シートだけでは分からないので、様式は再検討する。</p>
委員	<p>1点目として、取組状況の評価は誰が行っているのか、客観的に評価できているのか、そもそも目標値は適正なのか、目標を達成しやすいように設定されていないか。</p>

発言者	会議の概要
事務局	<p>2点目として、事業収益についてお聞きしたい。5頁を見ると水道はゆるやかに減少の見込みであり、人口減少もあるのでそうなのかなと感じるが、17頁の下水道の計画では増加に転じているのはどういう見込みか。人口減少社会で、収益が増加する要因として何があるのかお聞きしたい。</p> <p>取組状況の評価は、ビジョン策定時に決めた担当課が行っている。1課で担当しているものもあれば複数課で担当しているものもあるが、責任をもって評価している。客観的な評価については、本委員会でご意見をいただければと考えている。</p> <p>目標値については、安定的に水を供給し、安定的に水を処理することが我々の使命なので、しっかりと運営できるように目標設定している。</p> <p>事業収益については、水道は普及率ほぼ100%であるのに対し、下水道は、今後も整備を進めていく。下水道使用料は伸び悩むかもしれないが収益全体が伸びているのは、今後、減価償却費が上がっていく見込みがあり、それに連動して長期前受金が増加する見込みがあることと、雨水処理による一般会計からの負担金が増加していく見込みとなっている。</p>
委員	<p>1点目として、取組状況に遅れが出ているものはリカバリーできるものなのか。</p> <p>2点目として、事業年度の取組みと指標進捗に多少のタイムラグがあるように感じる。取組状況の遅れが指標にすぐ影響するのか、それとも時間をおいて影響してくるのか。限りある紙面で記載するのは難しいが、局外部の人でもこの評価シートだけ見て分かるように記載方法について工夫をしてほしい。</p> <p>3点目として、取組状況の評価として実施回数だけで評価するのも1つの手法だが、事業によってはそれが適切かどうか。回数が少なくても効果を発揮しているものもある。例えば、6頁に記載の「主な取り組み③(ア)」については、コロナの影響で回数は達成できなかったものの、奥三河へ訪問した際、電話でのサポートなど何かあったら相談できる関係が築けていて、日常的に安心できる存在となっていることを伺った。回数だけでは見えない成果もあるので、それをどう評価するか。</p> <p>4点目として、HPの閲覧数が減少しているとあるが、令和元年時点の閲覧数は、どのような理由で維持されてきたのか。小学校4年生ぐらいが施設見学等に来ると聞いているので、その事前事後にHPで調べているということであれば、見学等が戻ればアクセスは増えるのではないか。</p> <p>5点目として、18頁の取組状況の中で、「下水道事業の財源確保」が△</p>

発言者	会議の概要
事務局	<p>となっており驚いた。理由は資産売却や広告収入が上手くいかなかったことではあるが、営業収益と営業外収益と記載を分けた方が良いのではないか。ミスリーディングになる危険もある。</p> <p>例えば、高山配水場でいうと3カ年の整備計画なので、その間の別工事で遅れは吸収できる。単年度の事業評価なので遅れが出ているとしている。</p> <p>技術支援は回数で管理しており、訪問できなかつた期間をカバーするやりとりは行っており、満足は頂いていると自負している。</p>
事務局	<p>収益や費用には営業と営業外、特別損益の部分があり、それぞれ分析する必要がある。会計制度の見直しがあつてから、減価償却費と長期前受金戻入がそれぞれ営業と営業外になっているので判断が難しいが、使用量単価と処理原価で比較するのがわかりやすいので、その指標も取り入れていく必要があるように感じた。</p>
委員	<p>13頁でバイオマス利活用センターのガス発電買電量について、法定点検により目標を達成できなかつたとあるが、法定点検はもともと決められているものだが、それを見込んで計画を立てていたのではないか。</p> <p>見込んでいたのであれば、目標を達成できなかつた別の理由があるのではないか。定められた点検を実施しているのであれば、それは理由にはならないのではないか。</p>
事務局	<p>計画上どこまで法定点検を見込んでいるかは未確認。昨年度未達成の理由は長期に発電機を停止する点検があつてしまったことによる。記載の方法については検討する。</p>
会長	<p>初年度の評価シートということで、基本フォーマットとしては踏襲していくと思うが、委員からの意見をできるだけ組み込んで更新してほしい。見開きで統一しているが余白もあるので、補足情報を入れるなどして、ビジョンと見比べないと分からないということがないように更新してほしい。</p>
会長	<p>次に議題（2）上下水道局の取り組み（工事）について 事務局より説明を求めます。</p>
事務局 事務局	<p>資料2-1「管種別更新基準年数に基づく水道管の更新について」説明 資料2-2「ストックマネジメント計画に基づく下水道施設の改築・更新について」説明</p>
委員	<p>説明していただいたが、その考え方は良くないと思っている。水道はφ50mm以下の配水管は漏水が発生したら修繕する、いわゆる事後保全をするとのことだが、漏水だけでなく修繕に伴い断水も発生する。今までは年に数回だったものが、週に数回、毎日と頻度が上がるのが起こりうる。その頻度が高くなる可能性があることを許容するのか。事後保全</p>

発言者	会議の概要
事務局	<p>は後世に負担を押し付けるようなものであって、耐用年数を引き延ばすことは良いが、基本は全ての配水管について計画的に更新していかないといけないと考える。費用が足らなければ、料金改定してでも進めていくべき。</p> <p>下水道についても同様。道路陥没だけでなく雨水が家に流れ込んだら家が傾くなどの被害も考えられる。</p> <p>整備をする際に耐用年数も分かっているので、整備する際には更新費用も見込んでおかないといけない。</p> <p>委員が言われるとおり、全ての管を更新できるのが一番良い。今の状況としては、業者が受注できる事業範囲などを考慮した最大限の計画を立てている。管種別更新計画など、ビジョン策定時に見直して、より多くの工事ができるように努力しており、優先度をつけて進めている。</p> <p>一方、水道事業者などは会社の規模も小さく、人材も不足しており手一杯という声もある。断水については、ネットワーク化を進め、より断水の影響が少なくなるように接続の方法を検討している。</p>
委員	<p>点検も工事も全て実施する場合の費用を示していけば、水道事業者も設備投資や人材確保など進めていくと思う。毎年、企業が受注できず不調に終わる件数が開示されていけば分かるが、不調が発生しないように発注量を調整していると、それだけの業務量しかない企業側も判断して投資が進まない。</p> <p>できる範囲で工事等を実施するのではなく、365日24時間使えるインフラを維持するためにどれだけ費用が必要かをアピールしていけば、料金改定なども理解を得られると思う。</p> <p>今後、断水等が頻発する自治体は選ばれないのではないかと。50年後、100年後を見越して今からしっかりと計画を立てて実施していかないといけないと考える。</p>
会長 事務局	<p>現状をもう少し周知していくと市民の理解を得ていくのではないかと。昨年度と比べて、少しでも先に進めようと更新費を増やした計画が今の計画。市民に向けては、上下水道局だよりなど広報に力を入れて現状を伝えていく中で、意見交換を行い良い方向に進めていきたい。</p>
会長	<p>他に意見はありませんか。</p> <p>意見が出尽くしたようなので、本日の意見は事務局で検討をしてください。</p> <p>本日の議題はこれで終了とする。</p>
事務局	7. 閉会